



2022 年 7 月 4 日
飯野海運株式会社

当社は 2022 年 7 月 1 日に創業 123 年を迎えました。
代表取締役社長 當舎裕己が 6 月 29 日に飯野海運グループ全社員に向けて下記の通り挨拶を行いました。

記

2022 年 創業記念日 社長挨拶

2022 年 7 月 1 日、123 回目の創業記念日を迎えるにあたり、役職員の皆さまに一言ご挨拶申し上げます。

2019 年 12 月に中国武漢で第一例の感染者が報告され、その後急速に世界に拡大した新型コロナウイルスは、世界経済や人々の暮らしに大きな影響をもたらしました。発生から今年で 3 年目になりますが、新たな変異株発生の懸念が残るものの、足元ではワクチン接種が進んだことで、世界各国で経済活動の制約が緩和されつつあります。当社においても、感染防止の観点で取ってきた勤務体制や各種ガイドラインを状況に応じ段階的に見直しており、本日は 3 年ぶりに創業記念式典を対面形式にてここイイノホールで開催することとなりました。皆さまの前で直にお話できることを、大変嬉しく思っております。

さて、現在でも続いているロシアによるウクライナ侵攻は、世界経済や企業を取り巻く環境に大きな変化をもたらしています。当社においては、欧米諸国主導の対ロシア制裁やウクライナ・ロシアの輸出入の減少による物流の変化が海運業に影響を与えるのは勿論のこと、資源・エネルギー価格の高騰は不動産業も含め影響があります。また、ロシア軍によるウクライナの人々への人権侵害が明らかになる中で、社会的責任の観点で企業の姿勢を明確に打ち出していくことが求められるようになっていきます。当社は、3 月にウクライナの方々や周辺国への避難を余儀なくされている方々を支援すべく、総額 1,000 万円の寄付の他、役職員の募金による支援を実施しました。更に、全社的な議論を行い、荷主を含む取引先にロシア関連ビジネスに関する当社の姿勢を表明しています。

1. 現状のロシアによるウクライナ侵攻およびそれに伴う非人道的行為に対しては、断固として非難し反対を表明する。
2. 各国が実施するロシアへの経済制裁措置を支持し順守する。

3. 直接的間接的を問わずロシアへの支援に繋がるような行為には関与しない。従って、ロシアに関係する新たな輸送契約の締結も停止する
4. 既存の輸送契約において、ロシアに関係する輸送義務が発生した場合においては、荷主や用船先への代替策の提案を含め協議を行い回避すべく努力する。やむを得ない場合においては、契約順守も当社の重視する企業価値であることも踏まえ、その時点でリスクアセスメントを実施し必要な対策を取った上で最終的に判断する。

ところで、昨年の創業記念日や今年の新年挨拶において、私が繰り返し皆さまに伝えてきたメッセージを覚えているでしょうか？そう、「変革をためらうな！」です。この一年間、自分自身のあるいは身の回りの業務で変革は起こっているでしょうか。

今年の新年の挨拶にて、シリコンバレーのスタートアップ企業 Bearing 社とのコラボレーションにより AI を活用した船舶の CO₂排出シミュレーションソフトを導入したことを紹介しましたが、本日はこの案件を通じて得た当社の学びを説明します。

先ず、アジャイル型の開発方式を採用することでシステム開発が短期化され、結果として現場ユーザーの今のニーズに沿った業務改革が速やかに実現できることです。アジャイルとは直訳すると「俊敏な」「素早い」というような意味となりますが、アジャイルの特徴として、従来型のように綿密にシステムの全体設計を行い文書化した上で一気に開発をするのではなく、機能別にユーザーとの対話を通じて、トライアンドエラーをしていきながら、柔軟な開発を短期のサイクルで繰り返していきます。

ユーザーからのフィードバックを随時吸収して開発が進みますので、開発期間中のニーズ変化に対応できるのは勿論のこと、異なる専門性を持つ企業同士の緊密な対話によってこれまで思いつかなかったような新しい発想も期待できますので、変化のスピードの速いイノベーションを求められる今の時代にピッタリの開発方式と言えます。この学びはシステム開発に留まらず、ビジネスにおける様々な課題解決の場面でも有用かと思います。

尚、先端技術を持つスタートアップ企業とのコラボレーションを更に進めていくために、同じくシリコンバレーに拠点を置きスタートアップ企業とのマッチングや協業支援を実施している世界最大のアクセラレーター Plug and Play Belgium B.V. の起用を5月初めに決定しています。皆さまには、自らの関係する業務で課題があればどんどん提案してもらい、アジャイルな物の考え方で社内の議論を活性化し変革を進めていってほしいと思います。

さて、2020年に発表した現中期経営計画「Be Unique and Innovative. : The Next Stage - 2030年に向けて -」は、今年最終年度を迎えます。年初の挨拶において、今年は現中計を達成させると同時に2023年からの新しい中計を策定する一年になるとお話ししました。現中計における IINO VISION for 2030、即ち飯野海運グループの2030年のありた

き姿は「時代の要請に応え、自由な発想で進化し続ける独立系グローバル企業」です。これから新中計を作り上げていくにあたり、変化する時代の要請をどう見極め対応していくのか、全てのグループ役職員が自由な発想を持って、今後の会社の進むべき道についての議論に積極的に参加してもらいたいと考えています。

最後に、その新中計に向けた社内での議論を今後深めていくための、心構えを皆さまにお話したいと思います。

まずは、当社の行動指針たる IINO PRIDE と IINO STYLE を改めて確認して欲しいと思います。行動原則たる IINO PRIDE とは、公明正大の原則の下、自律性を重んじ、IINO PERSON としてのプライドを持って行動する事です。何かをする際に、公平で私心がなく、隠し事をせず、自分の良心に照らして堂々としていることが重要です。また、行動様式たる IINO STYLE とは、健全であること、俊敏であること、レジリエントであることです。先入観なく相手の意見を聞き、自分の意見を健全に述べるができるか、チャンス或いはピンチが訪れると思われる時に躊躇なく俊敏・アジャイルに行動を起こせるか、追い詰められても平常心を保てるレジリエントな精神力を維持できるか、を心掛けてほしいと思います。また、対面やリモート、コミュニケーションの方式は変化してきておりますが、どの方式においても Speak up（発言）に加え、Listen up（傾聴）、Appreciate（感謝）も意識し、話しやすい環境・雰囲気を作、聞き手側が作る事も実りのある議論を生むためには重要かと思ひます。

当社は、独立系企業として、特定の取引先や組織、団体の影響を受けず、権力に屈することなく、自分たちの考えを社内の議論を経て公明正大に堂々と発信することができます。最初にお話ししたウクライナ情勢に関する当社の姿勢も一つの例です。環境、社会を始めとする時代の要請や世の中の状況が目まぐるしく変化する中で、新しい会社の針路を定めるにあたり、現在の延長線の未来（足元→足元から導かれた1年後→さらに導かれた10年後）ではなく、あるべき未来から今後我々の成すべきこと（10年後のあるべき未来→それに向けて今すべきこと→さらに将来すべきこと）を、これから皆で一緒に考え議論していきたいと思ひます。飯野海運グループが常に時代の要請の半歩先、一歩先を進めるような新中計を一致団結で作成していきましょう。

それでは、結びにあたりまして、

グループ全船の安全運航、所有ビルの安全無事故

グループ各社の一層の繁栄

グループ役職員の皆様ならびにそのご家族のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。